



高齢・過疎化が進行し、急速に荒廃林や荒廃農地が増加する地域で、農福連携により障害の有無にかかわらず、皆が活躍できる「持続可能な農山村地域づくり」を目指す。

基本情報

- 所在地：奈良県奈良市
- 団体名：社会福祉法人青葉仁会
- 選定表彰：
 - ノウフク・アワード2020審査員特別賞「地域を耕す」
 - 米・食味分析鑑定コンクール2018国際大会
 - プレミアムライセンスグッドファーマー
(主催：米・食味鑑定士協会)
 - 令和5年度 循環型社会形成推進功労者環境大臣表彰
 - ノウフク・アワード2023グランプリ
- 主力商品：
 - (農作物) 水稻、さつまいも、ブルーベリー、タマネギ
 - (加工品) 干し芋、レトルト・冷凍食品、菓子等
- 取得認証等：－

取組の概要

- 荒廃農地となった各地域の広大な農地で米、さつまいも、玉ねぎ、じゃがいもや夏野菜、冬野菜を20種類以上、ブルーベリーや栗など果樹を栽培。最盛期には収穫祭を開催、県内外から大勢の来客がある。
- 収穫した農産物は、法人内のカフェ・レストランの食材として、加工部門の事業所では、ブルーベリージャム、カレー、バジルペースト、干し芋、惣菜などに利用され、いずれも障害者が主力として働く。
- また、企業のOEM受託、スーパーや物産店等、全国へ農産物や加工品を出荷しているほか、地元生鮮野菜加工企業と連携し、廃棄予定の野菜の端材を引き受け、商品に加工し、またそれらの生産品を小売企業と連携し、販売活動を活性化するなど、フードロスの削減に対する事業を行っている。
- その他、観光農園の運営、廃校の活用など、多角的に事業を展開。



稲刈りを皆で協力



ブルーベリー収穫祭



レストランでのホール業務

体制図

社会福祉法人
青葉仁会

あおはにかい 萌あおはにかい
(施設入所・生活介護・就労継続B)

あおはにかいファーム・あおはにかい自然学校
(農産物の生産・ブルーベリー園・観光農園)

水間ワークス(飲食店・乾燥加工) RIKUGOの森(レトルト・冷凍製品製造) ポラーノ広場(飲食店、パン製造) 生駒事業所(飲食店、菓子製造) 満天ひろば(飲食店、石鹸・縫製製造) デリカテッセンイーハトーヴ(飲食店、給食製造) 日笠ワークス(飲食店、紙漉き製造)

取組の成果

- 農産物の売上は、625万円(H30)から1,358万円(R4)へ増加。
- 食品加工の環境を活かした就業訓練で、40名を超える利用者が一般企業に就職。
- ノウフク関連業務にあたる障害者(継続支援・生活介護・就労移行・雇用含む)の人数は427名になり、約5,660万/令和4年度の工賃・賃金を支払う。

所在地 ▶ 奈良県奈良市 杉ノ川町50-1

連絡先 ▶ TEL : 0742-81-0420 E-mail : info@aohani.com

ウェブサイト ▶ <https://aohani.org/>

【取組のプロセス】

昭和55年

当時障害児には、学校卒業後の選択肢は少なく、長年在宅で親兄弟の世話を受け続ける現状

平成4年

奈良市東部地域での事業展開を実施。杣の川ワークス、水間ワークス、日笠ワークス設立

平成14年

奈良県北西部に事業展開。デリカテッセンイーハトヴ、ポラーノ広場、生駒事業所を開設

平成22年

農山漁村振興交付金事業の活用

米は10t、さつまいも12t、ブルーベリー10t、玉ねぎ5tなど、各種野菜も20種類以上栽培

今後の展望

きっかけ

義務教育卒業後の生徒たちの行き場が、社会全体で整備されていないことに大きな問題を感じたことから社会福祉法人を設立

社会福祉法人青葉仁会の設立

- 知的障害者入所授産施設あおはにの家を開設。
- 障害者の作業を行うための施設を開設するほかワークショップ等の活動も開始。

第2入所施設 萌あおはにを開所

- 生産活動を通じて社会参加を促し、自立支援と工賃を保障するため、様々な生産活動を開始。農業部門は「自然学校班」として養蜂やさつまいも栽培を担当。
- また、地域は高齢・過疎化が進行し、急速に荒廃林や荒廃農地が増加する中、障害のある人たちが担い手となって「持続可能な農山村地域づくり」を目指す。

農業生産、食品加工を強化

- 農福連携を通じた地域の再生を目的として、さらなる生産拡大のため農業に専従する「あおはにファーム」を新設。さつまいも、米等の生産拡大を行う。荒廃した茶畑を開墾してブルーベリー園へ再生し、摘み取りを楽しめる農場では、「自然学校班」に所属する障害者が主体となって運営し、年間を通じて就労できる作業を確保。
- あおはにファームで栽培した野菜を使用した冷凍食品、レトルト食品、菓子を法人内5事業所で分担して実施。加工工程でも多くの障害者が活躍する。
- 法人内7か所の飲食店であおはにファームの野菜を活用したメニューを提供。
- 他法人と連携した事業で、ひとり親家庭への食材提供や子ども食堂利用者の収穫体験ツアーなどを実施。ビニールハウスの設置により通年安定した食料が供給できる。

地域全体を支える法人に

- 農業衰退の進む中山間地域で、障害のある人たちが主体となったマルシェ、レストラン、農産物販売、農業体験、農家生活体験の場を提供することで、地域全体の更なる集客増加を目指し、地域の人が集まれる場所、地域文化と農福連携を実現したい。
- 荒廃農地や就農者の減少を食い止め、地域の食料供給のセーフティーネットとして機能することに加え、障害の有無に関係なく多くの人たちが活躍し、社会全体を支える仕組みを実現する。



施設の送迎車



農作業の様子



自家栽培さつまいもの干し芋



農山漁村振興交付金を活用したビニールハウス



障害者目線の職場環境や作業手順に配慮し、九条ネギをメインとした野菜の生産に取り組むとともに、障害者や就労困難者の雇用、就労支援にも積極的に取り組む。

基本情報

- 所在地：京都府京都市
- 団体名：株式会社しんやさい
- 選定表彰：
 - ・ 障害者雇用優良事業所表彰（令和5年度）
 - ・ 優良勤労者表彰（令和5年度）
（京都府知事）
 - ・ 中小企業ミライ絵日記アワード2023 審査員賞
（（一社）ちいきん会・（一社）スマートニッチ応援団 共催）
 - ・ ノウフク・アワード2023優秀賞
- 主力商品：九条ねぎ、長なす、金時人参、
聖護院大根、聖護院かぶ、新京野菜等
- 取得認証等：認定農業者
京都はあとふる企業認証（京都府）
S認証（（一社）ソーシャル企業認証機構）

取組の概要

- 新規就農者として障害者雇用を行った際に、障害への理解不足で当該職員が退職した経験から、相手の立場に立つことの重要性を認識し、その後、障害者雇用を本格的に開始。
- 社員4名のうち、障害者2名と元ニート1名を正規雇用し、全員に最低賃金以上を支給。
- 車いすや手押し車でも収穫体験ができるようにほ場を整備しているほか、障害者でも理解しやすい農作業マニュアルを作成するなど、障害者が働きやすい環境を整備。地域の福祉事業所や特別支援学校に野菜や花の種を提供し、共同で栽培を行っている。
- 職業訓練により正規雇用ステップアップした障害者職員が企業在籍型職場適応援助者の資格を取得し、若手障害者職員を指導。
- 地域の加工業者や販売業者と連携し、規格外野菜を活用した加工品の生産を開始。
- 自社による週に一度の飲食営業を開始し、収益向上や廃棄ロスの削減に貢献。



農園スタッフと実習生



車いすでの収穫体験

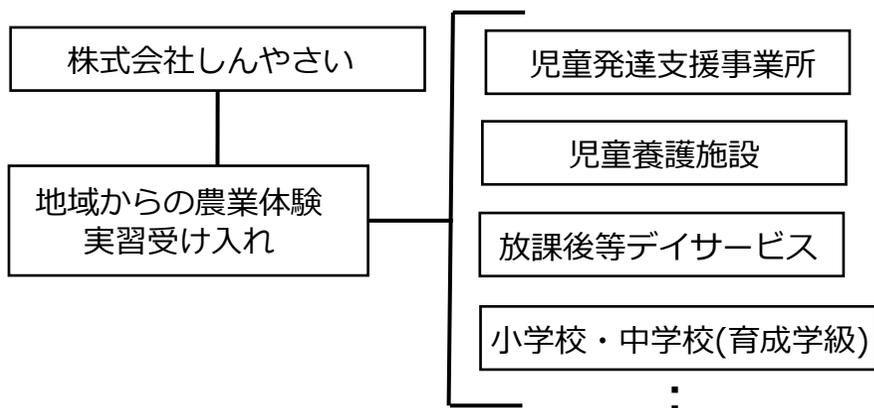


各作業のマニュアル作成



京野菜と加工品

体制図



取組の成果

- 障害者を受け入れたことで、労働力不足が解消。障害者に配慮した作業の見える化をすることで、障害者以外の農作業も効率化。
- 近隣の荒廃農地を新たに借り受けて規模拡大（平成27年：72a→令和4年：約300a）を図り、新たな品目を作付けできたことで収益が向上。
- 障害者だけでなく、多様な人々の農業体験・実習の場となっている。
- 障害者に配慮した職場環境や、作業の見える化を行うことにより、障害者以外の作業の効率化も実現。

所在地▶農園：京都府久世郡久御山町西一口新道北46 / 事務所：京都市南区
 連絡先▶TEL:075-682-8622 E-mail:info@shinyasai.kyoto
 ウェブサイト▶<https://www.shinyasai.kyoto/>

【取組のプロセス】

平成29年

福祉サービス事業所からの申し出があったことから、施設外就労として連携を開始

きっかけ

京都市で新規就農し、九条ねぎ等の栽培を通じ、地域の福祉事業所との連携や障害者雇用により、生きづらさを抱えた人財の農業分野での活躍の可能性に気付いた

平成30年

障害者雇用を開始。一度は失敗するも京都府の就農相談員からの紹介で継続

九条ネギをメインに多種多品目の野菜の生産にチャレンジ

- 就農当初、人手不足もあり、研修先農業法人の元同僚(障害者)を雇用したが、障害者への理解不足のまま接してしまい、半年程で退職。
- 2人目の障害者雇用時は、当事者の希望に寄り添い無理のない働き方(週1回半日勤務)でスタート、徐々に時間や日数を伸ばし、重要な戦力として勤務。



福祉サービス事業所と九条ねぎの定植作業

令和2年

代表が、農福連携技術支援者として認定

障害者目線の農福連携の取組を実践

- 拠点ハウスの男女別トイレの設置、特別支援学校からの実習の受け入れを皮切りに、地域のこども園・児童養護施設・小学校・中学校・高等学校・高等技術専門校・大学・大学院・放課後等デイサービス・子ども食堂・ボーイスカウト等と連携し、収穫体験や職場体験実習を実施するなど、地域内交流を進めている。
- 地域の社会福祉協議会が主催する認知症カフェ利用の高齢者や身体障害者等に対し、車椅子や手押し車でも収穫体験ができるよう配慮。



特別支援学校からの実習受け入れ

令和5年

京都府知事より
・障害者雇用優良事業所表彰
・優良勤労者表彰を受賞

障害者等を積極的に受け入れ、雇用条件充実のため法人化

- 地域の廃業した銭湯を活用し、週に1度の規格外野菜を多用したランチ営業をスタート、農作業体験だけでなく、調理実習や接客体験もプログラムに追加。
- 障害のある社員が、企業在籍型職場適応援助者の資格を取得、自身の経験も踏まえ、同じ立場で支援(ピアサポート)する取組をスタート。
- 障害者等が自身の経験を活かして、障害者雇用セミナーやシンポジウム、ニート・ひきこもり支援の交流会等で積極的に登壇、体験談等を話すことで様々な業種での理解が深まり、多様な人々が働きやすい職場環境の創出につながっている。



京都式農福連携啓発マンガ

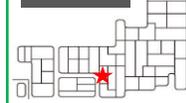
今後の展望

農業分野でのロールモデルになる

- 農福連携の取組についてPRし、販路の拡大を図ると共に、障害福祉サービス事業所とのコラボ商品(加工品)を開発、ノウフクJASやGAPの取得を目指す。
- 障害等のある社員が、支援を受ける立場から支援する立場へキャリアアップを図り、農業分野でのロールモデルとして、他の農業者や地域での農福連携の推進を目指す。



実習生と一緒にマルシェでの販売



障害の有無や年齢を問わず、すべての人たちが集い、人と自然、人と人との触れ合いの中でお互いを認め合い、生きがいを見つける地域のコミュニティを提供。園芸療法により利用者の主体性を引き出す。

基本情報

- 所在地：大阪府高槻市
- 団体名：特定非営利活動法人たかつき
- 選定表彰：ノウフク・アワード2023
チャレンジ賞
- 主力商品：－
- 取得認証等：－



「自分の畑」でミニトマトを収穫

取組の概要

- 介護保険施設であるデイサービスセンター晴耕雨読舎を平成19年に開所。農地を借りて認知症高齢者や要介護高齢者の生きがいづくり、健康維持、増進に向けた園芸療法を実施。
- 施設に隣接する農地（7a）に加えて、農作業に取り組む利用者の増加に伴い遊休農地（4.5a）を借り、比較的体が動く利用者とともに畑として活用。
- 現在造園エクステリア企業との連携企画が進行。要介護高齢者がいる老人ホームやデイサービスで農園芸に取り組めるシステムのモデル作りを進めている。



建物に隣接した農地に「自分の畑」が並ぶ



収穫時に笑顔が弾ける



体を動かすことで運動機能向上・維持

体制図

特定非営利活動法人 たかつき

介護保険事業部

子ども事業部

園芸療法事業部

取組の成果

- 認知症で意欲低下が著しく動くことが少ない利用者が自分の畑を持ち、野菜の手入れをすることで、収穫の頃には畑までの往復歩行が習慣化。
- 利用当初に比べて歩く距離が増え、下肢筋力の低下を予防。
- 近隣の遊休農地を活用することで農地の維持に貢献。
- 介護高齢者数は2,400人（平成13年）から、5,580人（令和4年）へと増加。
- 「認知症ケア事例ジャーナル」の特集において、10ページに渡って、認知症介護の現場での園芸療法の取組方法や有効性について発信。

所在地 ▶ 大阪府高槻市原2235番地

連絡先 ▶ TEL:072-689-9112 E-mail: information@npo-takatsuki.org

ウェブサイト ▶ <https://npo-takatsuki.org>

【取組のプロセス】

平成13年

要支援・要介護高齢者の活躍の場を創出

きっかけ

要支援・要介護高齢者の活躍の場を創出することを目的に施設と隣接する農地7aを借りて園芸療法を開始

介護保険施設であるデイサービスセンター晴耕雨読舎を開所

- 園芸療法に取り組めるように農地を借り、一部を農地転用して建物を建て、農地を活用して園芸療法を実施。
- 農地の整備は利用者の状態に合わせてレイズドベッドの導入、利用者個々の畑区画「自分の畑」の導入などを進め、利用者の主体性を引き出し、能動的に活動参加。



レイズドベッド
座った状態で白菜を管理

平成30年

地域の遊休農地を活用

農地面積は遊休農地と合わせて11.5a

- 当初は施設に隣接する農地のみ（7a）で農作業をしていたが、農作業に取り組む利用者が増加。デイサービスから少し離れた遊休農地（4.5a）を借り、比較的体が動く利用者とともに畑として活用。



仏壇に飾る花を育て
自らが摘んで持ち帰る

令和4年

多世代交流により、誰もが楽しめる地域の場を創出

小学生の自然体験活動日を倍に増やす

- 遊休農地を地域の小学生の自然体験活動に利用。月2回地域の小学生40人が参加し、季節の野菜作りを中心とした農業体験をしている。
- デイサービスにある畑で地域の未就学児親子の自然体験活動を月3回実施し、子どもたちは農業体験をするとともにデイサービスの利用者と自然にふれあうことができている。



90歳がバケツ稲を収穫

今後の
展望

人生の最期の時間を有意義に幸せに過ごせる社会をつくるための輪を広げたい

隣の市のデイサービスで農園芸の取組を指導

- 農園芸ができる介護現場を増やすために、当法人のスタッフで共有している「園芸療法心得帳」を土台にマニュアルを作成する。このマニュアルを活用し、全国各地の高齢者施設で農園芸を実践できる仕組みを作る。

- 介護現場での農福連携の取組を通して、高齢化による農業の担い手不足と、それによる荒廃農地の増加といった社会課題を解決していきたい。



国の司法行政と地域の福祉を繋ぐ役割を担い、就労の場作りを行うこと等により、罪に問われた者等の社会復帰を支援し、誰もが地域の一員として包摂される社会の実現を目指す。

基本情報

- 所在地：奈良県橿原市
- 団体名：一般財団法人かがやきホーム
- 選定表彰：奈良県保護観察所 感謝状
作田明賞 優秀賞
ノウフク・アワード2023
チャレンジ賞
- 主力商品：－
- 取得認証等：－

一般財団法人 かがやきホーム
～Splendente Famiglia NARA～

「全ての困っている人を、家族の一員として受け入れ、一人一人が輝ける家」として命名

取組の概要

- 令和2年、奈良県が「奈良県更生支援の推進に関する条例」を制定したことを契機に、県の出捐により、県知事を代表理事とする財団法人として設立。法務省と連携して都道府県が罪に問われた者等の社会復帰を支援する仕組みは全国初。
- 刑務所出所者等を直接雇用し、五條市内の森林組合及び青ネギ生産組合等の協力により、同組合での就労研修（技術指導等）を実施。
- 居住する市内で実施されたクリーンキャンペーンやこども食堂への応援など、社会貢献活動に積極的参加。



五條市青ネギ生産組合(研修先)
で農業の技術指導を受ける

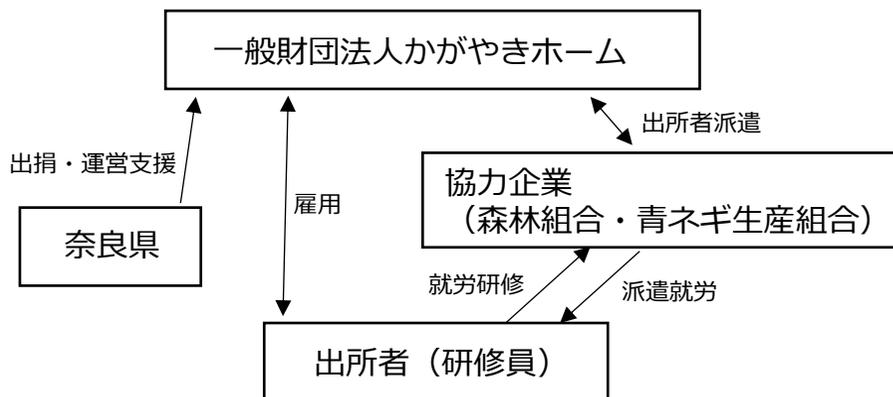


五條市森林組合(研修先)
で林業の技術指導を受ける



五條市市民集會に自主参加(社会貢献作業)

体制図



取組の成果

- 就労を通じて様々な人たちと交流することでコミュニケーションスキルの向上に繋がっている。
- 社会福祉施設において利用者と触れ合いながら作業実習の手助けをすることで共助・協働の意識が高められている。
- 令和2年9月に雇用した研修員1名が五條市森林組合に正式採用。
- 活動が認められたことで、近隣の休耕田を無償で借り入れることができ、ネギの栽培により荒廃農地の解消に貢献。

所在地 ▶ 奈良県橿原市大久保町320番地の11

連絡先 ▶ TEL:0744-33-9661

ウェブサイト ▶ <https://www.nara-kagayaki.com/>

【取組のプロセス】

令和2年

罪に問われた者等を支援するために地域において就労の場や住居を確保することを目的に設立

きっかけ

国の司法行政と地域の福祉を繋ぐ役割を担い、就労の場を作り出すことを目的として取組を開始

罪に問われた者等を支援するために設立

- 令和2年、「奈良県更生支援の推進に関する条例」に基づき、罪に問われた者等の更生支援に関する事業を行う財団として設立。
- 出所者を雇用し、就労の場を提供するのみならず、住居の提供や社会教育の実施により社会復帰を支援する。



手塩にかけてネギを栽培

令和4年

農業就労研修のため出所者2名の雇用

ネギ生産組合で農業就労研修を開始、荒廃農地の解消

- 令和4年10月から農業就労研修を開始。働きぶりが認められ、近隣の休耕田(29a)を無償で借り入れてネギを栽培。荒廃農地の解消による地域維持に貢献。
- 五條市森林組合において週に4日、木の伐採、草刈り、作業道の整備、植林などに従事して林業の技術指導を受ける。



カットネギ工場パック詰め

令和5年

社会貢献作業を通じて福祉施設との交流を深め、同施設との連携を図る

地域との連携・社会への包摂と社会復帰

- 週に一度、社会貢献活動として福祉施設において空き缶の仕分け（リサイクル）や肥料作りを手伝うなどして、福祉施設との関わりを深めている。
- 研修員が社会福祉法人の農業部や研修先の福祉施設に採用される等、地域の農林水産業の担い手に。
- 現状では更生支援を実際に担う団体・機関が一部に限定されているため、派遣できる職種を広げ、充実させ社会に貢献することを目指している。



五條市クリーンキャンペーンに参加(奉仕活動)

令和6年

研修員2名のうち、1名は福祉施設の職員として採用予定
他の1名は、農業就労研修を継続

研修員の自立を目指す

- 農業系学校のカリキュラムも踏まえて、農業従事者に必要な技能、資格取得（日本農業技術検定各級、農業簿記各級、農業機械士及び大型特殊免許などの資格取得）を目指し、将来は研修員の自立（起業・農業法人での就農等）に繋げる。



刈払機講習にて技術習得と資格取得

今後の展望